

# 受賞おめでとうございます!!

## 小中学生作文コンクール「感謝と成長のエピソード」～支えあいの実体験を通して感じた思い～

このコンクールは、子どもたちが普段の暮らしの中での家族、友人、地域の方などとのつながりや支えあいの実体験を通じて感じたことや学んだこと、そして今後どのように暮らしていきたいかを考える機会をつくり、誰もが人とながら、支えながら暮らしていける共生・共助社会の実現を目指すことを目的に埼玉県社会福祉協議会が実施したものです。

埼玉県全体で2,790通の応募があり、その中から小学生の部において、朝霞市の織原佑光さんが優秀賞を受賞されました。支え合うことの大切さを感じさせてくれる、とてもあたたかい作品です。

### 優秀賞 「感謝と成長のエピソード」

朝霞市立朝霞第一小学校6年生（受賞時）

おりはら ゆうき

織原 佑光 さん

「受賞を知った時、とても嬉しかったです。おばあちゃん達にお世話になったから、今度は自分がお手伝いをしていきたいです。そしてみんながもっと高齢者と関わって、高齢者を助ける朝霞になってほしいと思います。」



### 「感謝と成長のエピソード」

朝霞市立朝霞第一小学校 六年 織原 佑光

ぼくには四人のおばあちゃんがいます。二人は本当のおばあちゃん、あとの二人は近所のおばさんです。

ぼく達は双子で小さく産まれてしまいました。大きくなるまで入院していたそうです。退院した時は「うれしかったけれど不安の方が大きかった。」とお母さんが言っていました。

そんな不安がっていたお母さんを助けてくれたのは近所のおばさんです。毎日のように家に来てくれてお風呂に入れてくれたり、お散歩に連れて行ってくれたり、ミルクをくれたり、お母さんと同じような事をしてくれたそうです。

お母さんとおばあちゃんが頼んだのではなく、進んで毎日ぼく達の世話をしてくれたそうです。そのおかげでぼく達は大きなケガや病気もしないでここまで大きくなりました。

なかなかおばさん達と会う事が出来なくなったけど、会うと「大きくなったね。」と言ってぼく達のかたをポンポンたたいて喜んでくれます。おばさん達よりぼく達の方がいつの間にか大きくなっていました。

そんな元気なおばさん達も、足腰が弱くなったり病気になってあまり目が見えなくなったそうです。

今度はぼく達が進んで助ける番です。重たい荷物も持ってあげたり、車どおりがはげしい道ではいっしょにわたったり、買い物に行ってあげたりと今までしてもらった事をたくさんしていこうと思います。そしていつまでも元気でいてもらって、会った時に笑顔でまた会いたいです。